

令和三年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	新しい生活様式に対応した 地域のいばしょ・接点の場事業
事業主体 (連絡先)	信州移住計画 代表 辰巳和生 090-5992-2206
事業区分	地域協働の推進に関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	4,203,863円 円(うち支援金: 2,885,000 円)

事業内容

地域のローカル拠点となる坂勤で、「地域のいばしょ」「地域接点場」のより一層の拡充を図る為、「新しい生活様式」を意識しながら以下を事業とし、拡充を行なった

- ・2拠点／コリビング／ワーケーションなどの関係人口との接点機能
- ・塾や習い事などで利用できる私設公民館としての公民館機能
- ・小商いの的な地域起業の実践の場としての機能



【関係人口／他方から人が集まる】

【目標・ねらい】

「新しい生活様式の取り組み」をテーマとし、関係人口の増加を目指す為、コリビングやワーケーションができる環境づくり、地域の人の活動拠点となるローカル公民館機能の整備、ローカルビジネスを実践する人材の育成と伴走ができる地域企業の場づくりを目標とした。

事業効果

①関係人口の一つである2拠点利用者の新規利用者が増加し且つ安定的に利用継続となっている。利用者によっては今後の県内移住を検討していたり起業準備をしていたり、地域の作業や雪かきに参画し関係を持つ人材となっている。コリビング利用者はコロナの影響を受けて今年度は実装には至らなかった。

@5,500円×46ヶ月(述べ)=253,000円

②昨年度から坂勤内でシェアメイトが始めた「子育てサロン」にて木曽地域内外に親御さんが継続的に参加し、地域内のボランティアも坂勤に出入りした。毎年恒例の餅つき会もしかりで、ローカル公民館としての機能は拡充しているがコロナの影響で速度感は鈍化。

年間利用(会費異なる)=20,000円

③坂勤シェアメイトや2拠点利用者の起業が相次いでいる。それぞれがコロナ禍での新しい生活様式を意識した機能提供、機能創出に挑戦している。また、コミュニティ内で起業マインドの共有や協力意識が強く芽生えている。今後の新規関係者にも伝染が予測される。

自己評価【A】

【理由】

・家の未活用スペースの改修を行い機能整備を完了することができた。・コロナ禍により状況変化の影響を受け続けているが、コロナ以後への活動基盤が整い、また元気づくり支援金事業以後の方向性も視野に入れることができた

今後の取り組み

これまでに、坂勤の機能性の根幹である「地域のいばしょ」「地域接点の場」。の機能や意味は確定的なものとなったと自負している。今後は坂勤だけでなく、贄川地域内の休耕地活用の関係人口創出と地域との接点強化や、地域と協力し空き家対策、空き飲食店活用を実行。自らのビジネスの枠を超えて、地域との関係性から成る地域コミュニティ創出を目指し活動を行う。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある